

路地活用としての小路めぐり

1.はじめに

新潟市の中心市街地は、江戸時代から港町として栄えていた古町地区と、信濃川の内陸側に新規開発された新潟駅を中心とする地区に分かれている。新潟駅周辺は業務系の蓄積が多く、古町地区は江戸時代からの街区を色濃く残すことから小規模宅地が多く、また旧来からの商業用途の集積が多い。新潟市における旧市街地地区である古町地区の旧来からの都市構造を生かした、まちあるき観光の取り組みについて報告する。



萬代橋

2.古町地区概要

古町地区は、西側から西堀通、古町通、東堀通、本町通の4つの通りとその周辺地区である。通りの多くで雪国である特性上アーケードの整備されている。萬代橋より、古町方面に入る道筋とクロスするあたりが本地区での中心部である。古町通には新潟出身の漫画家の水島新司のキャラクターの銅像を並べた「水島新司まんがストリート」を整備しており、観光スポットとなっている。



小路

この4つの通に直交するように小路と呼ばれる路地が多く存在している。

3.路地を生かしたまちづくりと小路めぐり

小路は、この古町地区全体で35数えられている。冊子は市民独自の、にいがた寺町からの会発行の「にいがた寺町から」と、市の支援による小路めぐり古町通界限編と本町通界限編が発行されており、その内容は、地図や、イラスト・写真を交えた、小路の由来、地区の歴史などの解説などとなっている。イラストが多用され、地図や読み物としてユニークに仕上がっており、手の取りやすい物となっている。このうち古町編は初版1万部を発行し1週間でなくなるなど人気になっており、調査日時には4刷発行している。本町通界

限編は好評を受けて、初版3万5千部発行した。



小路めぐり

今後、マップを用いて、市のボランティアのシティガイドでの活用などをしていきたいとのことである。また古町地区のうち上古町地区では、アーケードの建て替えに伴いそのアーケードの無い状態の記録や、独自の巻物状の小路地図の配布なども行われており、地域独自の活動が広がっている。

4.おわりに

現在、新潟の小路にかかわる地図作成とそれに触発された動きが出つつある状況である。歴史や街並みをより長く楽しんでもらうためには、滞在時間を出来るだけ長くする必要があり、また地元への経済効果を考えれば、立ち寄り場所、買い物する場所なども情報として必要であろう。

今後はこの地図を契機とした、地域、行政、観光、事業者などより多くの連携を行えるようなシステムづくりを期待したい。

地域データ

人口：804,447名 世帯数：310,000世帯

(新潟市、平成22年1月末)

場所：新潟市中央区古町通周辺

JR新潟駅から北西に約1.9km

